

# 2013 年 大学入試センター試験 【講評(速報)】 数学Ⅱ・B

## 1. 総論

### (1) 出題数と形式

第1問〔1〕に昨年までは単独での出題がなかった「図形と方程式」が出題された。その代わりに「三角関数」は単独の出題がなくなり、第4問のベクトルの問題の中で1問だけ不等式が出題された。

### (2) 出題内容

教科書のすべての単元からまんべんなく出題された。数学的帰納法を穴埋め式の設定で出題している点が新しい。

### (3) 問題の難易度

昨年より易化し、分量も減少した。

## 2. 大問ごとの分析

### 第1問 〔1〕 図形と方程式, 〔2〕 指数関数・対数関数

〔1〕 すべて基本公式の運用で処理できるレベルの問題で易しかった。

〔2〕 3次方程式の解と係数の関係を含んでいるが、指数・対数の方程式の問題としては基本的な出題であった。

### 第2問 微分・積分

定数 $a$ を含んでいるが、場合分けの必要がなく、また設問自体にも複雑なところがないため単純な計算問題であった。ただし、 $1/6$  公式を使いこなせていない受験生は、計算でつまづいた可能性もある。

### 第3問 数列

数学的帰納法に関する設問は、深く考えずに数式の代入を繰り返せば解けてしまうので、出題者の意図とは異なったものになってしまったかもしれない。

### 第4問 ベクトル

久々に平面ベクトルからの出題であった。(3)で方針を立てにくい部分があったが、三角関数の不等式の問題も含めて無理のないレベルの出題であった。